

営農ウィークリーNEWS

京おくら出荷部会 2年目の取り組み



7月9日 目合わせ会の様子



最盛期を迎えた京おくらの様子



普及センターとの圃場巡回の様子

J A京都中央では、2019年度より、新規地域振興作物として「京おくら」の産地化に取り組んでいます。

2021年度は、本格的に夏期における基幹品目として生産拡大を行い、管内の西南部地域を中心に18人が作付けを開始されました。(栽培面積50a)

8月中旬、線状降水帯による大雨と日照不足の影響により、出荷量が落ち込みましたが、9月以降は気候も安定し、順調に出荷量を伸ばすことができました。

10月6日時点での実績は、出荷量5.5t、kg単価972円、販売金額536万円となっています。

出荷量は、前年比197%でしたが、kg単価は前年比72%と落ち込み、最盛期以降の安定販売が次年度の課題となりました。

今年は、京都乙訓農業改良普及センターの普及計画にも位置付けられ、定期的な圃場巡回を行い、栽培面でのサポートを実施しました。

10月の終盤を迎え、草丈が2m近くになる圃場もあり、収穫作業も手を伸ばしてやっと届く高さになっています。気を緩めず最後まで出荷を続け、市場の信頼獲得を図りました。

J Aでは、次年度へ向け、京おくら生産者を大募集しています。お問い合わせは、経済部 営農販売課または、各エリア担当者までお願いいたします。

—TAC information—

京おくらを一緒に作りましょう!



「京おくら」の生産者を



大募集 しています!

ぜひ、一緒に「京おくら」を盛り上げましょう!



J A では、次年度へ向け、京おくら生産者を大募集しています。

オクラは、栽培が比較的容易で、初期投資も少なく栽培初心者でも非常に取り組みやすい品目です。

栽培面積は2a程度でも十分出荷が可能です。

ぜひ、一緒に京おくらを盛り上げましょう!



JA京都中央

令和3年10月19日 NO.571 齊藤篤